

## 第二幕

### 第一場 [セリン、カウリン、タートル人の衛兵]

カウリン

その心遣いは王者に相応しいもの。  
私が殿下のお考えを伝えました  
チェルケス人達は、まもなくやってまいりましょう。 395  
連中は当惑して、そのお考えがいかなるものか  
説明してほしいと強く望んでおりました。

セリン

着いたら私の前へ通してくれ。  
祖国の幸福を守る術をよく知る  
あの立派な老人に会いたいのだ。 400  
我が最初の聴聞に際して、  
他の大物貴族の中でも彼こそ  
最も気高く、賢き執政官といわれていた。  
ああ、かの弁舌はどれほど多くのことを私に教えたらう！  
ソラーヤはその父が元老院で持つ 405  
権威の偉大なることを話してくれた。  
私が大使となったまさにその日、  
議会で彼はその賢明さを示し、  
戦争と和平の様々な可能性について  
語ったのだとソラーヤは言っていた。 410  
というのも無鉄砲な若者達が  
(賢さではなく家柄によって選ばれたもの達が)  
戦争の善も悪も知らぬがゆえに  
和平を捨てて交戦を望んだのだ。  
アドリオは戦争の悲惨を訴え、 415  
その言葉が意味する害悪を説き、  
かようにして、しかし尊大になることなく  
他のもの達を震撼させた。  
慎重なもの皆が和平協定に署名をした。  
血気盛んな件の若者達でさえ、 420  
理性を知り、しかと掴んで、  
その向こう見ずな言動に恥じ入ったのだ。  
徳高き賢人に対する尊敬の念は  
寛容な心の内にかくも大きく作用する。  
しかしアドリオは彼らを下におくことはせず、 425  
それどころか、別の機会にその勇猛はとっておけと  
言ったのだ。「若者よ、かくも立派な願いを  
あらわにする君達を誇らしく思う。  
戦いを望むその熱意、祖国は褒め称えるであろう。

苦しい戦争も意義あるものならば、430  
我等の栄えある血はそれを受け入れるだろう。  
その血を流す日もいつかは来よう。  
その時までには今ある平和を愉しむがよい。  
だがその安穩を支配する享樂や贅沢で  
怠惰に陥ってはいけない」と。435  
かくも賢き言葉は後に称揚されたのだ・・・

カウリン  
ソラーヤ様のお越しです。

セリン  
私のソラーヤ、  
さあ、おいで、この胸を喜びで満たしておくれ。

第二場 [セリン、カウリン、ソラーヤ、カサリア]

セリン  
君の美しさを目にするたびに  
この愛情は高まるばかり。440  
どんどん綺麗になるようで、  
この胸はさらなる喜びで満たされるのだ。  
そばにおいで・・・しかし天よ！これは一体どうしたことだ？  
その顔は悲しみにやつれ、  
苦しみを抱えているように見える。445  
君の表情に落ち着きがないのはなぜなのだ？  
哀れな私！君の瞳はふさぎこんだ心より溢れる  
涙を零しているのか？

ソラーヤ  
聖なる天よ！  
ああ、王子様。

セリン 何と。私を王子と呼ぶのか。  
不幸なもの達のなかで、私こそが最も不幸な人間だ。450  
これはどうしたことだろう。私を愛していた頃、  
君が私を呼ぶのに考え出したあの素晴らしい  
名前の数々を忘れてしまったというのか？  
あの日々の記憶は消え去ってしまったというのか？  
絢爛豪華たるアジアではお馴染みの455  
彩りゆたかな呼び名よ。  
ソラーヤがセリンと話すときには  
よりはつらつと響いたあの名前は どうして しまったのか？  
あれらの名前はこんなにも早く、宮廷での慣わしに

取って代わられてしまうものなのか？ 460

王子様。我が兵士達は、父上の臣下達は

私をそう呼ぶだろう。だがこの耳は、

甘美さを伴って君が私を呼ぶ

あの優しい響きに慣れ親しんでしまった。

この私を捧げるのに相応しかったあの女性と君は別人なのだろうか？ 465

ソラーヤ

変わりませんわ。これからも、これまでと同じ私、

けれど前よりも不幸なのです。

セリン

誰が君を苦しめる。

愛するこの心は君を理解できないでいる。

君の美しい瞳にそんなにもたくさんの涙が！

君の、そして私のものでもあるその心にそんなに大きな苦しみが。 470

君は悲しみ、君は泣く！世界は

我が太刀のひらめきの前に震撼せずにはおれまい。

奉仕こそ相応しい人に苦悩を

もたらした不埒な輩は誰か言っておくれ。

それを聞くや否や、殺してくれよう。

ソラーヤ

私とあなたの 475

仲を引き裂こうとするものに復讐をお望みですか？

セリン

そうだ、ソラーヤ。

ソラーヤ

誓って？

セリン

誓って言うが、

私の怒りによってそいつを血祭りに上げるだろう。

ソラーヤ

セリン様、それはあなたの愛するものなのです。

セリン

そいつが天の庇護を受けていようと 480

君に苦しみをもたらした以上、

我が愛が厳しく苛むだろう。

ソラーヤ

それでは剣をお抜きになって、王子様、  
そしてあなたの苦しみの真の理由を  
倒してくださいまし。驚くでしょうね、485  
この心臓を開き、この血を撒き散らしてくださいまし。

セリン

悲しみから君は謎かけをしているのだろうか？  
その血が私達の幸せに棹差すというのか？  
何と、君の心が私の望みに逆らうのか？  
君の苦しみが分からない、あるいはそれを信じたくない。490

ソラーヤ

天にかけて申しますわ、心から愛しているのです。  
生きるも死ぬも私にはどうでもいいこと、  
でもあなた無しだなんて考えられないのです。

セリン

愛しいソラーヤ、最後まで説明してくれ。  
君は私を愛していて、私は君の兄上にも会った。495  
その心とともに、君は私に手を与えてくれた。  
一体何が私達を阻むというのか？

ソラーヤ

ああ、嘆かわしき今日という日。

私が軽薄であったために・・・  
カサリア、悲しみでどうにかなりそうだわ・・・  
[失神し、カサリアの腕に倒れこむ]

セリン

天よ！これはどうしたことだ？

カサリア

ああ神様、気を失われたのです。500

セリン

ソラーヤ。

第三場 [前場の人物、タタール人の将校]

将校

ソラーヤ様の弟と名乗る  
チェルケスの貴族の若者が・・・



我が姉上でないことは確かだ。  
美德を大切に思われる方なのだから。 530  
父に、兄弟に、名誉の教えを見せられ、聞かせられたのだ。  
その美德はよもや・・・

ソラーヤ

世を続べたもう天よ！  
弟よ！何をしにきたの？急いで戻りなさい。 535  
ここで人生の不幸な終わりを迎えてはいけないわ。

カシーロ

呼んだのはセリンではないのか？父上も  
おいでになる。お怒りであることを伝えておくぞ。

ソラーヤ

セリン様が招いたのは確かです。  
でもそれは私の方便だったのです。より大きな 540  
災厄を逃れるには、嘘を言うほかなかったのです。

カシーロ

嘘をつくこと以上にひどい悪があろうか？  
たとえ嘘によって貴様の過ちが  
新たな災いを生み出さないとしても  
美德が一度でも心を過ぎたなら 545  
嘘を忌み嫌うに十分だったはずだ。  
父上は貴様の過ちを知ると、  
その愛情を怒りに変えられて、  
私に仰ったのだ。長らくお前を諫め  
延ばそうとするその手をとどめてきたが、 550  
今こそ命ずる。行くが良い、傷つけるがよい、  
護衛を蹴散らせ殺せ、さもなくば死んでこい。  
私は年をとり力が無いがお前についていこう。  
〔自ら力を振るう〕武器とはなりえないが、  
娘の死と私の名誉の証人となるだろう。 555  
一秒ごとに罪が重ねられていく。  
そう仰せになられたのだ。その声は貴様の胸を  
切り裂くこの腕に力を注がれたのだ。

ソラーヤ

弟よ！

カシーロ

我が名誉を汚す者の弟であるものか。  
貴様の声は聞こえぬ、名誉の声が呼んでいるのだ。 560

命を捨てるか、恋人を失うか。  
その忌まわしき胸を、あるいは裏切りの結びつきを  
この瞬間にこの腕で砕いてくれよう。  
助けが来ると思うな。

第六場 [前場の人物、セリン]

私が助けに来たぞ。

我が主に向って剣を抜くというのか？ 565  
これは軽率か、それとも発狂したか？  
姉への服従を何が忘れさせたのか？

カシーロ

貴様が法を破り、協定に反したのと  
同じ理由によってだ、セリン。  
私達はどちらも情熱に駆られている。 570  
私は復讐に、お前は愛に。名誉が  
恋に敵わぬとは公平を欠くというもの。  
貴様はソラーヤを奪い、私は姉を殺す。  
貴様には愛が、私には名誉が尊い。  
奪われようと、殺されようと、いずれにしても 575  
彼女は不幸になる運命。

第七場 [前場の人物、アドリオ、エラクリオ]

アドリオ

死んでしまったのか？しかし何という光景だ？ [エラクリオに向って]

エラクリオ

ソラーヤ、セリンとともにカシーロがいます。 [アドリオに向って]

セリン

奪ったのではない、このセリン、かくも野蛮であったことはない。 [カシーロに]  
私がそんな人間だと考えているなら、それは侮辱だ。 580  
私が彼女を見、彼女が私を見た。見つめあうのと恋に落ちるのは  
同時だったのだ。甘き喜びに満ちて、  
恋に落ちた私は彼女を探し求めた。  
この思いにあの方も愛で答えてくれたのだ。

アドリオ

うわべばかりの愛の言葉は 585  
女にとっては暴力も同じ。  
その心から正気を奪って、  
抵抗することもままならなくする。  
あなたには、セリンよ、これは盗みとは違うものと思われるか？

精神から力を奪ってしまうのは 590  
泥棒以上の大泥棒の所業だ。  
彼女の名が抽選で外れたということが、  
天もあなたの望みに逆らって、  
ソラーヤを与えることを拒んだということが分からないのか。  
もしも・・・だが何を言おう。裏切り者とは 595  
純真な耳を説き伏せて、  
誘惑された心に行動を促す  
恋人のささやきだということがあなたには分からないのか？  
あなたが王子であるならば、その身分に  
泥を塗っていることを考えてもみよ。 600  
どんなに栄えある事業さえも、愛のために  
恥ずべきものとなることを知るがよい。

セリン  
チェルケス人よ、何の力によってこの私に  
大それた口を利くものか？

アドリオ  
あなたの悪に対して、法と 605  
正義、そして我が理性の力によって。

エラクリオ  
何ものにも屈しない、美德の力によって。

カシーロ  
そしてとどめえぬ剣の力によって。  
長らく黙ってきたが、チェルケス人の  
勇気が私に欠けていると思ったか？ 610  
姉上を殺すために抜いたこの剣で  
貴様の血を滴らせてくれる。

ソラーヤ  
何てひどい運命なのでしょう！  
恋人、兄弟、お父様！これほどの  
不幸を自分が引き起こしたのを目にして、  
人生で最後となろう悲嘆を覚えるわ。 615

エラクリオ  
美しい女が男達を苦しめなかったことは  
あるだろうか？原因はお前なのだ。  
この恐ろしい混乱の中で  
勝者と敗者が決する前に、  
お前の巻き起こした嵐を鎮めるがいい。 620



カシーロ

ここで議論に用はない。行動あるのみ。  
お前の強さは、セリンよ、よく知っている。  
獰猛にして血に飢えた  
苛烈極まりない獣のごとき、  
残酷なタタールの軍勢に 625  
ぐるりを囲まれてさえいる。  
私達の誰かが愚かにも  
武器を取って事の解決に当たろうとすれば、  
我等を皆殺しにするのは  
容易いこと。そうするがいい。 630  
お前の怪物どもが怒りをむき出しにするよう命じるがいい。  
それでも貴様に受ける屈辱に比べれば他愛もないもの。  
貴様の恋人、私の不埒な姉よ、  
その不幸な父よ、兄弟よ、  
愛と暴君の刃にかかって 635  
今日という悲惨な日に死を迎えるがいい。  
貴様の血筋と結ばれるくらいなら、  
私の家族は皆殺しとなって  
その不幸な血はばら撒かれればいい。  
私は逃げたりするものか。 640

セリン

[アドリオに向って] 不敵な若者の思い上がった調子を、  
賢き人よ、この心が耳にしたならば、  
私の若き血潮がたぎり、  
あなたの一族を灰に帰すだろうと思いはせぬか？  
だがそうはすまい。あなたの白髪に私は 645  
怒りを静めることを学んだのだから。 [カシーロに向って] 分別を失くし、  
逆上にまかせて、若者よ、お前は私に口を利いたな。  
怒りを鎮めるがいい、見よ、私は冷静だ。  
従える軍勢の強大を思えば、  
理性をかなぐり捨てることも出来ようが、 650  
このセリンが獣でもなければ、傲慢でもなきこと  
こうして今あなた達には分かっただろう。  
恋人への尊敬も父への尊敬も抜きにして、  
最良と思われる道を彼女に決断させようではないか。  
私についてタタールの国へ行くと決めたなら、 655  
あなた達は身を引くがよい。なぜなら  
私の幸福を阻もうと考えるものは  
自国全土の荒廃を招くだろうから。  
また彼女が娘としての愛情を選び、  
祖国を離れないというのならば、このセリンは 660

あなた達の腕の中に彼女を残していくことを約束しよう。  
もしも彼女の意志に反するならば、  
忌まわしき縄にかけてチェルケスより  
彼女を連れ出したとの誹りを受けようから。  
言ってほしい、私の考えをどう思われるか。 665

アドリオ  
大いなる美德だ。

エラクリオ  
思慮深さというものだ。

カシーロ  
臆病者の考えだ。  
一見、美德に思われるが恐怖しているのだ。  
愛のために身を投げ出さぬ恋人があるだろうか？

エラクリオ  
思慮深さというものだ。なぜなら高貴なるあなたは  
兵力を最後の手段にとっておかれる。 670

アドリオ  
美德というものだ。ここにある善か、あるいは悪を、  
求めるにせよ、逃れるにせよ、  
その自由をソラーヤの胸に委ねている。

セリン  
私を動かしているのが深慮か怯懦か。  
いつの日にかお前にそれが分かるまで、 675  
その大それた物言いは聞かなかったことにしよう。  
そうして先の提案を繰り返そう。  
[ソラーヤに向って] 君の答えを待っている。早い返事をおくれ。  
幸せな判決か、不幸な判決か、  
美しいその唇から聞かせておくれ。 680  
君の父も恋人も兄弟もそれを待っているのだ。  
その唇がすべてを握っている。  
たった一言、ほんの一声で  
チェルケスの喜びは  
一瞬にして不幸に転じる。 685  
そして、愛と名誉と不安に  
哀れにも苛まれる心は  
全き平穏と喜びに満たされるのだ。

アドリオ

息子達よ、寛容な心が我々に申し出た  
めでたき機会を享受するでしょう。 690

ソラーヤ

とてもとても長い間、私は沈黙してまいりました、けれど  
愛するお父様、私の心も悲しみでふさいでいるのです。  
女、恋する女として、不幸な女として、  
私は随分黙ってきたのです。

アドリオ

口を開くがよい、愛する娘よ。

ソラーヤ

こんなにも苦しく、心揺れる物思いをしながら、 695  
私には闇と混乱しか見出せないのです。  
お父様達を戸惑わせる恐れは  
一つ一つ別々のものでありましょう。  
けれど私にとってはすべてが、つまりカシー口の激高、  
セリン様の愛、お父様の嘆きの声、 700  
エラクリオ兄様の理性と落胆が  
一丸となって襲ってくるのです。  
すべてをお話したいのに、何も声にはならないのです。  
動こうとしても石像のように身動きが取れないのです。  
この混沌とした状況で、最良と思われる道を 705  
選ぶとするのですけれど、出来ないのです。  
ある考えを口にしようとするたちまち、  
別の考えが現れて、はじめのそれを打ち消すのです。  
どうぞ一人にしてくださいまし。私は  
この事態において、最も残酷とならない道を見つけないのです。 710  
この不幸においてそんなものがあるならば、ですけれど。

アドリオ

愛する息子達よ。

苦悩する娘を一人にしてやろう。  
彼女が自分で決めるのだ、我々は邪魔をしない。  
その心が決まった時、再びやってこよう。  
さようなら、ソラーヤ、お別れだ。もし私を 715  
捨てていってしまうというのなら、年老いた優しき、そして不幸な父の  
最後の言葉だよ。 [去る]

エラクリオ

お前の兄もお別れを言おう。  
お前の心はそんなにも冷酷なのだろうか？ [去る]

カシーロ

カシーロとはこの私だ。罰を恐れるがいい。〔去る〕

セリン

そして君の恋人は、もはや何も言うまい。〔去る〕 720

第八場〔ソラーヤ、カサリア〕

ソラーヤ

皆様に天のご加護がありますように。そして  
愛と名誉と不安の中で、最も悲惨でない道を  
私に指し示してくださいますように。

カサリア、こんな悲嘆の内に私を置き去りにしないでちょうだい。

天が私に拒まれた慰めを 725

あなたの友情から受け取るのですから。